

“ともに立ち上がろう！” JBU 救援ニュース < 第 11 号 >

基幹労連
東日本大震災
中央災害対策本部
2011年5月20日(金)
www.kikan-roren.or.jp

～被災された多くの皆さまに心よりお見舞い申し上げます～

◆現在の被災状況

現在掌握できている組合員の人的被害 死亡12人、安否未確認1人(5月20日現在)

◆新たにJBUパワーバンクが出動！～宮城県へ～

5月15日より、JBUパワーバンク独自の活動第2弾をスタートさせました。

派遣先は宮城県塩釜市を中心に、当面は6月11日まで4陣の派遣を決定しました。基本的には日曜日に基幹労連本部を専用バスで出発し、5日間実働した後、土曜日にバスで帰着するスケジュールを組んでいます。活動内容は、津波被害を受けた家屋の家財道具・畳の搬出、泥出し、避難所支援です。急な要請にも係わらず、次のとおり多くのご登録をいただいております。JBUパワーバンク教育や機関紙3・4月合併号3面の「ボランティアの心得」をもう一度お読みいただき、ケガのないよう、無理をしないよう、ご安全をお願いします。

第1陣：5月15日(日)～5月21日(土) 6名(女性1)…現在活動中

第2陣：5月22日(日)～5月28日(土) 17名(女性2)

第3陣：5月29日(日)～6月4日(土) 18名(女性2)

第4陣：6月5日(日)～6月11日(土) 21名(女性3)

※募集を締め切りました。ご協力ありがとうございます。

◆連合ボランティア 第5陣・第6陣が活躍



(上) 第5陣の基幹労連メンバー
(下) 第6陣の全派遣団

連合ボランティア派遣団の第5陣が5月2日から5月10日まで(基幹労連から19名)、続く第6陣が5月10日から5月18日まで(同20名)が参加し、担当の釜石地区において活動しました。基幹労連本部から同行した担当者はこれまでを振り返り、「基幹労連からの参加者全員がボランティアとしてのマナーを守り、依頼者からのニーズに応えるべく懸命にかつ寡黙に活動されており、その姿に頭の下がる思いである」と口々にし、また初日からそれぞれの持ち場・役割を認識し、抜群のチームワークで効率良く作業していることから、『ものづくり産業』に携わる基幹労連に集う仲間であることを実感し、皆さんの真摯な姿に感銘しています。感謝申し上げますとともに、引き続きのご協力をお願いします。

< 基幹労連からの参加者数 >

3月31日～5月26日 127名

□ボランティア体験談(その4)～釜石地区・陸前高田地区 第3陣より～



ボランティア活動初日に、私たちが被災現場へ向かうバスの中から見た光景は、町全体がまさに戦争で破壊されたようであり、改めて津波の威力の凄まじさを感じました。倒壊した家屋、骨組みだけ残った事務所、陸に打ち上げられた船舶などを目の当たりにした時、本当にこれが現実なのかという思いもしました。このような状況の中、私たちは人の胸の高さまで浸水した家屋からの不要物撤去、床下に溜まった汚泥のかき出し、冷凍庫から流失したサンマ 720 万匹の回収作業（臭気が凄かった）

など、他産別メンバーと一丸となって連日活動を行いました。

正直、大変な活動でしたが、被災者の方々から、辛くて深い悲しみや苦しみがあるにも関わらず、私たちに対し「ありがとう」「お世話になりました」など感謝の言葉をかけて頂きました。私たちの活動がどれだけ役に立ったのかはわかりませんが、長期的な支援が大切であり、それぞれの立場で無理することなく継続できる活動が必要と思います。これからも、被災地の一日も早い復旧・復興に向けて、東北地方に基幹労連パワーを結集しましょう。



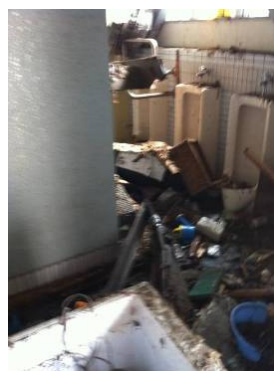
がんばろう 日本!! やるぞ 基幹労連!!

山九労働組合連合会 中央執行委員(中国西労組 組合長)吉村孝宏

□ボランティア体験談(その5)～釜石地区・陸前高田地区 第4陣より～

第4陣は宮古ベースキャンプに47名、私の参加した東和ベースキャンプに48名、総勢95名でした。作業内容について、力仕事を中心である事、ケガに留意する事、撤去する物は家主さんにとっては宝物である事など基本的な注意や説明を受け現地へ出発いたしました。東和のベースキャンプは活動場所の釜石まで一時間半かかりますが、電気水道ガスは機能しており、食事には困らず、近くの風呂場で滝のように流した汗を流す事ができ、大変恵まれていました。

被災地の状況は目を見張るものでした。テレビで見る風景とは違う惨状でした。その中で商店街復興に向う駐車場、操業再開を願う製作所など明日への一步を踏み出そうという強い思いを感じながら作業することができました。自分たちの名を名乗り「自分たちのことを忘れないで欲しい、私たちは貴方達の事を一生忘れない」と言われた言葉が胸に残りました。どれも私にとってかけがえのない大切な経験でした。



私は心に誓いました「復興した釜石に必ず来よう笑顔を見る為に」と!

日本鋼管病院労働組合 執行委員 石塚雅次